

同友会だより

vol. 16 2022. 11. 30

発行：在日韓国良心囚同友会

故 孫裕炯先生はじめ5名の再審無罪を勝ち取る！！

2022年の取り組みをふり返って

在日韓国良心囚同友会・代表 李 哲

今年も残り少なくなりましたが、皆様方にはいかがお過ごしでしょうか？ 本年も在日韓国良心囚同友会の活動に大きなご協力を頂き、心より感謝申し上げます。

韓国ソウルでは10月29日のハロウィーンに数万の人々が集まった中、158名もの青年たちが圧死するという、信じられないような大惨事が起きました。8年前にも旅客船「セウォル号」の沈没で修学旅行中の304名の高校生たちが犠牲になる胸痛い事件がありましたが、その時と同じように今回も何の措置も講じなかった行政による人災だと指摘されています。

ソウル市や尹錫悦政府当局は、末端の警察幹部や消防隊員たちの責任だけを云々して立件し、国民の大きな怒りを買っています。そして今また人命の大切さと平和な民主社会を求めるローソク集会が全国各地で開かれ、無責任で無能な尹錫悦政権の退陣を求める声が日ごとに高まってきました。韓国の悲劇は3月の大統領選を勝てなかったことにすべて起因しています。

そんな中、私たち同友会にとって今年2022年は

目 次

- 2022年の取り組みをふり返って (李 哲) ……1
- 韓国「10月討論会」に参加して (康宗憲) ……2
- 故 孫裕炯氏の再審無罪確定！ (山田隆嗣) ……3
- 故 趙伸治氏の再審無罪確定！ (李東石) ……6
- 在日関連 柳廷植氏の再審無罪確定！ (李東石) ……9
- 金英姫さん家族の再審無罪確定！ (李東石) ……12
- 「最終陳述書」 (金英姫、柳英数) ……12
- 在日関連 朴基来氏の再審無罪判決！ (康宗憲) ……15
- 金永愛さんを偲んで (康宗憲ほか) ……18



韓国 KBS『スパイと島の少女』より (2022.9.29)

5名の方々が再審無罪を勝ち取るという、大変意義深い年となりました。今年の初め1月に元死刑囚だった故 孫裕炯さんの無罪が確定すると、続いて6月には故 趙伸治さん、7月には柳廷植さん、9月には柳英数氏のご夫人である金英姫さん、そして陳斗鉉さんとともに死刑判決を受けられた朴基来さんも、再審無罪を勝ち取られました。1年の間にこれほど多くの在日関連の方々が再審無罪を勝ち取られることは、近來まれなことです。

また9月29日には、韓国 KBS の「ドキュンサイト」で柳英数氏ご夫妻を取り扱った『スパイと島の少女』が放映され、韓国で大きな反響を呼び起こしました。これは李ホギョン PD が制作したもので、この作品は先日「統一言論賞特別賞」も受賞しました。ちなみに李ホギョン PD は在日政治犯たち取材した「スパイ」〔昨年の8・15光復節の報道特集番組〕や、韓国「サンケン電気」の解雇労働者や日本の支援者たちの闘いの感動的な映像を2月の「ドキュンサイト」で放映しています。

同友会では来年は、これらの作品に日本語の字幕を付けて皆様方にご鑑賞頂けるよう、上映会を開催

するつもりでいます。どうぞご期待下さい。

また今年の10月25～28日にかけて、ソウルで「民主社会のための弁護士の集い（民弁）や「モンダン鉛筆」など、5団体が主催する在日同胞招聘行事、『分断に立ち向かった人たち、在日同胞との同行』が催され、同友会からも3名が参加して、過去のねつ造スパイ事件の真実や背景、再審闘争の現状など

について報告してきました。詳細は2ページをご覧ください。

最後に皆様方にとって今年も良い年であり、新年もさらに実り大きな年となりますようお祈りいたします。来年もどうぞよろしくお願いいたします。

2022.11.30

在日韓国良心囚同友会 代表 李哲 拝

「分断に立ち向かう人たち、在日同胞との同行」 に招請されて

康 宗憲

2022年10月25日～28日にかけて開催された「分断に立ち向かう人たち、在日同胞との同行」に招請され、訪韓した。在日韓国良心囚同友会から李哲・康宗憲・李東石の3名、在日韓国民民主統一連合（韓統連）からは李鐵・金昌五・崔誠一・李俊一氏ら4名の参加だった。

行事は「モンダン鉛筆（朝鮮学校を支援する市民団体）」、「民主社会のための弁護士の集い（民弁）」、「フォーラム真実と正義」、「地球村同胞連帯（KIN）」、「民族問題研究所」などの諸団体が共同で主催した。

主な行事日程は以下のとおりである。25日、「国家人権委員会」を訪問し委員長ら主要幹部との面談。26日「真実和解のための過去事整理委員会」を訪問し委員長・事務局長らとの面談。その後「民弁」事務所に移動し懇談会（李哲氏が「在日同胞スパイ捏造事件が私たちに残した課題」というテーマで発表）。27日、国会議員会館で「在日同胞の人権、過去と現在そして未来のための討論会」に参加（私、康宗憲が「国家保安法と在日韓国人政治犯」について発表）。28日、貸し切りバスで江華島への紀行。

行事開催の趣旨と目的は、在日韓国人スパイ捏造事件の経緯と再審裁判を経た現状の課題、韓統連に対する旅券発給拒否と「反国家団体」規定の撤廃といった招請者に関わる問題だけでなく、朝鮮学校に対する無償化排除や、ウトロ放火事件などヘイトクライムへの対処についても考察することだった。ソウル滞在の在日同胞弁護士ク・リャンオク氏の発表や、日本からのオンライン参加でウトロ平和祈念館副館長キム・スファン氏らの報告もあって、文字通



国会議員会館での討論会（2022.10.27）

り「在日同胞の人権」に関する歴史的アプローチと総合的なアピールの場となった。

広報にまで十分な手配ができず、メディアにはあまり報道されなかったようだが、参加者は確かな手ごたえを感じたし、相互にゆるぎない信頼を築くことができた。何よりも、「分断に立ち向かう」という共通の課題を掲げ、国家保安法廃止を一貫して主張できたことは今後につながる成果になったと思う。

連日の行事をソツなくこなし、誠心誠意、私たちが在日同胞を歓迎しサポートしてくれた「モンダン鉛筆」を始めとする主催団体の皆さんに、心からの感謝と連帯のあいさつを伝えたい。



検察上告棄却！ 故 孫裕炯氏の「再審無罪」確定！

孫裕炯氏を支援する会 山田隆嗣

2021 年 10 月 19 日、ソウル高等法院は死刑確定判決の証拠とされた「自白」、押収された「物的証拠」をすべて否定して、故 孫裕炯氏に無罪判決を宣告しました。

その後、ソウル検察庁は 10 月 25 日、上告手続きを行いました。11 月 15 日に上告理由書を提出し、理由として「高裁無罪判決には法廷陳述の任意性の判断に関して、自由心証主義の範疇を逸脱し、公判調書の証拠能力を否定することで判決に影響を与えた法律違反があり、判決の違法を正すよう」に求めています。

再審請求代理人弁護士が「検察上告理由書への反論」を提出し、大法院で審理がされていました。

今年（2022 年）1 月 27 日午前 11 時 15 分、韓国大法院第二法廷で行われた再審上告審で、大法院は「検察上告を棄却する」判決を下しました。これにより故孫裕炯氏の再審無罪が確定しました。

事件から 41 年 念願の無罪の知らせ

法廷にはコロナ禍で出廷できなかった再審請求者のご夫人の夫辛花・次男の孫明弘ソン・ミョンホンさんたちに代わって、ソウル在住の故 孫氏のお孫さん一家と、元在日韓国人政治犯で再審無罪確定者の金長浩氏、人権医学研究所関係者などが出廷して裁判長の宣告を受けました。

判決の日、大阪市生野区の孫氏宅には夫辛花さん、次女の孫貞淑さん、次男の孫明弘さんが集まり、出廷したお孫さんからの電話連絡を待ちました。

11 時 20 分頃、「検察上告棄却」の大法院の判決が伝えられると、夫辛花オモニ、孫貞淑、孫明弘さんたちの緊張が解けて、安堵感が広がりました。

1981 年 4 月 25 日の不法連行から 41 年、やっと故 孫裕炯氏の無罪が確定し、ご家族の長年のご苦勞が報われる知らせが届けられました。

四度の死刑判決を宣告され、

獄中で病と闘い 17 年

2014 年 6 月 24 日に 84 歳で亡くなられた孫裕炯氏は、1981 年 11 月ソウル地方裁判所で死刑の宣告を受けました。1982 年 3 月、「3・3 特赦」で朴政権下の在日韓国人死刑囚 5 名の死刑から無期懲役への減刑を実施した直後の判決の時期が悪いとの判断か、判決日を突然 6 日から 20 日に変更してソウル高等裁判所の死刑判決が宣告されました。大法院での上告審で、ソウル高裁への差戻しとなり、極刑回避の期待がもたれましたが、1982 年 11 月ソウル高裁差戻し審でも死刑判決が下されました。大法院に



ソウル高等法院前にて（2021.9.14）

上告しましたが、1983 年 3 月 22 日に死刑が宣告され死刑が確定しました。

朴正熙大統領暗殺から「ソウルの春」を踏みにじり、12 月肅軍クーデターで政権を奪取、全土に戒厳令を發布し、流血の光州事件を経て誕生した全斗煥政権下の初めての在日韓国人政治犯事件として孫裕炯氏の「事件」が発表されました。

ソウル高裁への差戻し審が始まる直前の 1982 年 10 月 8 日、在日韓国人政治犯・陳斗鉉チン・ドヒョン氏事件の関連者で死刑が確定していた朴基来氏、金珪烈キム・テヨル氏のうち金珪烈氏ら死刑囚 8 名が刑執行されてしまったのです。

1984 年 8 月特赦で死刑から無期懲役に減刑になるまで孫裕炯氏はもちろん、ご家族は気が休まることはありませんでした。

また孫氏は逮捕前から“蓮見ワクチン”で知られる珠光会診療所にかかれ、胃がん・喉頭がんの疑いで KM ワクチンを 5 日毎に皮下注射されておられました。加えて糖尿病、特異体質を抱えて、獄中生活に耐えられるのかと心配されていました。KM

ワクチンは、韓国安全企画部での取り調べ期間と拘留所に移送されたのち代理人の太倫基弁護士が当局と交渉して接種できるまでの間は途切れたものの、家族が日本から送り続けてられました。

孫氏といえば「飲尿療法」。矯正所中に伝播して実践者が増えて、当局が困惑したという民間療法にめぐりあうまでは、困難な獄中を生き抜く手段は、家族からの医薬品の支えしかありませんでした。

孫氏は52歳から17年間拘束されつづけ、1998年3月の金大中大統領就任特赦で、三重県の金炳柱（キン・ピョンジュ）氏と同時に仮釈放で生きて出所し、5月に大阪市生野区の家族の元に戻られた時が69歳でした。人生の黄金期を無慈悲に踏みじられたのです。

国家賠償請求と故太倫基弁護士の復権へ

故 孫氏への理不尽な国家の過ちに対する国家の刑事賠償、そして孫氏が逮捕されることによって失われた利益、精神的慰謝料などを求めて民事賠償を求めて家族・親族が請求訴訟をおこなっています。

また1983年5月、孫氏の裁判の代理人の太倫基



故・孫裕炯氏再審無罪判決（2021.10.19）

弁護士が、孫氏家族に裁判資料を渡したことで国家機密の漏洩にあたると、弁護士懲戒委員会で除名処分を受け、弁護士資格を剥奪されました。太倫基氏は弁護士資格の回復のために努力されたようですが、2012年に亡くなるまで復権されなかったことが分かりました。

この間、故 太倫基氏の家族の方と連絡をとることができ、名誉回復のために動き出していることを最後に報告させていただきます。

故 孫裕炯氏、ご家族を支え続けて下さった皆様に心から感謝します。ありがとうございました。

（2022.11.13）

入国の際に安全企画部に不法逮捕・拷問…17年間 獄中生活 “スパイねつ造事件” 関連在日韓国人実業家 再審で無罪！

ニュースピム 2021.10.19

〔ソウル＝ニュースピム〕全斗煥政権時代に在日韓国人を対象にした、いわゆる“日本拠点スパイねつ造事件”に関連して17年間、獄中生活を強いられた実業家に再審裁判で無罪が宣告された。

ソウル高裁刑事12-1部（チェ・ポンヒ、チン・ヒョンミン、キム・ヒョンジュン高裁判事）は19日、スパイなどの容疑で裁判にかけられた故孫裕炯さんの再審宣告公判を開いて、“被告人に対する公訴事実を認める証拠がない、あるいは証拠能力も認められない”として、原審を破棄して無罪を宣告すると明らかにした。

ソウル高等裁判所裁判部は、当時の記録と関係者の陳述を根拠に、孫さんが国家安全企画部（安全企画部）捜査官に不法逮捕されて、拘禁された状態での苛酷行為を受けたと判断した。

そうして“被告人が公訴事実を自白する趣旨



ソウル高等裁判所

でした被告人の陳述は、安全企画部で拷問などの苛酷行為によって任意性のない心理状態でおこなった陳述と見られる”“その後、検察段階で

拷問などの苛酷行為がなかったとしても、このような心理状態が続いたとしたら任意性のない自白に相当する”と説明した。

また孫さんと収監生活を共にした証人が、“孫さんが、妻と息子の罪を問題にしないで、共犯を釈放してやるという捜査官の言葉を信じて、公訴事実を否認しなかったのだ”と述べた点も、無罪判断の根拠とした。

続いて“共同被告人たちも被告人が単にビジネスのために韓国と日本を往き来しながら知り合いたちと、書信を取り交わすとか、事業上の助けを受けたと述べた”として“被告人に国家の存立・安全や自由民主主義の基本秩序に実質的な害悪を及ぼす明白な危険性があるとか、反国家団体の指令を受けた者としてスパイ活動をしたという点は認められない”と述べた。

裁判長は、傍聴席で宣告結果を聞いて涙を流している孫さんの孫娘などに、“私も心が痛む。家族方々に結果をよく伝達することを願う”と話した。

再審当事者である孫さんはすでに死亡しており、再審を請求した孫さんの妻と息子は日本に

居住していて、法廷に出てこれなかったという。

日本の大阪で実業家として活動していた孫さんは、1981年4月に故郷訪問のために国内に出国したところを安全企画部職員に連行された。彼は安全企画部と捜査機関で調査を受けて、北朝鮮工作員に抱き込まれて指令を受けて、日本を拠点として国内に浸透し、スパイ活動をしたという容疑で裁判にかけられた。

孫さんは同じ年に、この事件で死刑の判決を受けて服役し、1998年に仮釈放されたが、2014年に死亡した。以後、遺族は孫さんが当時、安全企画部に不法拘禁された状態で、虚偽の陳述をしたと主張して、2017年に再審を請求した。

裁判所は2021年1月、孫さんが令状なしに不法逮捕・監禁されて裁判を受けるなど、刑事訴訟法上再審理由があると判断し、再審開始決定を下した。

孫さんの共犯として捕まって、それぞれ懲役刑・執行猶予を宣告された孫さんの親戚3人は、2021年7月に再審で無罪を宣告されて判決が確定している。

(이성화記者)

無罪確定「時間が経ちすぎた」—在日男性の遺族 「北朝鮮のスパイ」拷問され自白強要 韓国で17年収監

朝日新聞 2022.2.15 夕刊

韓国が軍事独裁政権下にあった1981年、母国訪問中に「北朝鮮のスパイ」として逮捕され、死刑判決を受けて17年間収監された大阪市の故孫裕炯（ソン・ユヒョン）さん（2014年に84歳で死去）の無罪が再審で確定した。孫さんの死後、遺族が裁判のやり直しを求めている。

再審を支援してきた在日韓国良心囚同友会（大阪市）によると、今年（2022年）1月27日、韓国大法院（最高裁）が検察の上告を棄却し、孫さんを無罪としたソウル高裁判決が確定した。

高裁判決は、孫さんが情報機関によって令状なしで46日間監禁され、拷問を受けて自白を強要されたと認定し、嫌疑全体がねつ造だったと結論づけていた。

大阪市生野区の自営業者だった孫さんは81年4月、取引先の銀行のゴルフコンペがあったソウルで拘束された。民主化を求めるデモを軍が武

力で制圧した光州事件の翌年だった。「北朝鮮のスパイと日本で接触し、韓国に入国して工作活動をした」という疑いをかけられた。多くの在日韓国人が同様に政治犯として捕らえられた。

孫さんは、1983年に死刑判決が確定した（後に減刑）。1998年の金大中大統領の就任に伴う赦免で仮釈放され、大阪へ戻った。

歴史の見直しに取り組んだ盧武鉉政権下の2008年以降、在日の元政治犯の再審に道が開かれたが、孫さんは「自分は絶対に無実だ」と語りつつ、「国家が立法で被害者に一括補償すべき

だ」とし、再審請求を見送っていた。

2017年に再審を求めた妻の夫辛花（プ・シナ）さん（91）は、取材に「私が生きているうちに罪をなくしてほしいと願っていたが、あまりに時間が経ちすぎて、うれしいという気持ちがわいてこない」と思いを吐露した。

地元の労働組合などと救援活動に取り組んだ二男の孫明弘（ソン・ミョンホン）さん（63）は、「在日の知人らが巻き添えを恐れて離れていく中、手をさしのべてくれたのは日本人の支援者だった。感謝の気持ちは忘れません」と話した。

1970～80年代、政治犯として逮捕、収監された在日韓国人は約70人にのぼった。国内で民主化要求が高まる中、強権の必要性を知らしめるねらいがあったとみられている。

同友会によると、孫さんを含め、これまでに38人の無罪判決が確定した。



故孫裕燦さんの遺影を前に、無罪確定を喜ぶ妻の夫辛花さん（左）と二男の明弘さん＝1日、大阪市長生野区

自らも政治犯とされ、13年間の獄中生活を送った同友会代表の李哲（イ・チョル）代表（73）は、「今も30人超が汚名を着せられたまま。今年3月の韓国大統領選の各候補には一括救済する特別立法を公約に入れるよう求めている」と話す。

故 趙伸治氏の再審無罪判決が確定！

李 東石

2022年6月23日14時10分、ソウル高等法院西館302号法廷で、第5裁判部（裁判長 ソ・スンニョル、判事 パク・ジェヨン、キム・サンチョル）は、故趙伸治氏に再審無罪判決を宣告した。

趙伸治氏は1956年、尼崎で生まれ、1971年、県立尼崎工業高校に入学。在学中に朝鮮文化研究会に所属し、本名宣言をした。1973年、追門学院大学に入学、1974年に同大学を中退。家業を手伝いながら、1977年から1979年にかけて台湾に語学留学をした。1983年に韓国延世大学に語学留学をして、1984年9月、一時日本に帰った後再び韓国に戻ったところを金浦空港で韓国国軍司令部に連行された。

同年10月、「学園浸透スパイ事件」として、尹正憲氏、許哲中氏、趙一之氏らと共に新聞報道された。翌年ソウル地方法院で公判が開かれ、趙伸治氏は起訴内容を全面否定し、水拷問などの拷問があったと告発した。第4回公判では検事側の証人尋問、



ソウル高等法院前にて 2022.6.23

第5回公判では弁護側の証人尋問をし、第6回公判で検察は懲役15年を求刑した。6月27日、第7回公判で「懲役7年、公民権停止7年」が宣告された。

趙伸治氏と検事の双方が控訴し、8月1日ソウル高等法院は原審通りの判決を下した。

双方が上告し、11月12日、大法院の李一珪裁判

長は不告不理の原則に反すると高等法院に破棄送還した。1986年2月、ソウル高等法院で差し戻し審が開かれ、4月1日、裁判長は重大判決に付き関係者以外の退廷を命じ、国家保安法無罪、反共法違反で2年刑が宣告された。趙伸治氏は弁護士立ち合いで「上告放棄書」にサインしたが、検事側が上告して、反共法は既決、国家保安法は未決となった。10月10日、光州矯導所から満期出所で釈放され、10月14日韓国大法院は検事側の上告を棄却し、反共法2年刑が確定した。

趙伸治氏は11月11日に家族の待つ日本に帰ってきた。

帰日後、家業を助けながら韓国政治犯救援活動に加わり、「先に帰って来た者の仕事だ」と言葉少なに語りながら、講演や政治犯の家族を励ました。

1991年3月14日、趙伸治氏は近所の銭湯の露天風呂で倒れ、救急搬送されたが関西労災病院で亡くなった。享年35歳の若さだった。死因は溺死だった。趙伸治氏は帰日後の人間ドックで心臓に異常があり、不整脈を指摘されていた。拘束中にも薬の服用が必要で、救援会では日本の外務省交渉を通じて薬を届けていた。

趙伸治氏が亡くなった後、韓国では2005年に「真実・和解過去事整理基本法」ができ、2010年以降

在日政治犯も再審請求をして無罪判決が続いた。同友会は故 趙伸治氏の家族に再審申請をするように勧めていたが、家族は趙伸治氏が拘束されたことや35歳の若さで夭折されたことを思い出すのも辛いようで、なかなか再審請求に至らなかった。

それでも同友会の働きかけで、ご家族は2019年10月に再審請求をされ、2021年9月再審開始決定、2022年4月12日に第1回公判が開かれた。5月24日、第2回公判でシム・ジェフアン弁護士は、取り調べは不法拘禁、拷問による自白強要等で行われたものであり、不法で証拠能力が無いと主張した。また再審請求人の家族が出廷できないのは、事件の衝撃が今も残っていて、いまだに韓国に来ることができない精神的な苦しみが大きいからだと訴えた。

6月23日14時10分、ソウル高等法院 西館第303号法廷で開かれた判決公判に、ご家族の出廷はかなわず、またコロナ禍で日本からの傍聴者もなかったが、ソウルの人権医学研究所やソウル在住の関係者や京郷新聞記者が傍聴にきた。判決宣告で裁判長は検事側の証拠はその能力が無いとして、無罪を宣告した。拘束されてから38年ぶりの無罪判決だった。検事は上告を放棄し再審無罪が確定した。

趙伸治氏が亡くなって、再審無罪の喜びをともに分かち合うことができないが、ご家族の方にとって少しでも慰労になればと思う。

私たちが記憶しなければならない名前“趙伸治” 40年ぶりに無罪…母国を訪ねて不法拘禁された 在日同胞スパイ団事件の被害者

「Ohmy News」2022.7.7 — 朴ミンジュン（日本語訳：李東石）

去る23日午後2時10分、ソウル高等法院西館302号室で、第5裁判部（ソ・スンニョル、パク・ジェヨン、キム・サンチョル 判事）は、また1つのスパイねつ造事件の無罪判決を宣告した。この日、無罪を宣告された在日同胞、故趙伸治先生は、去る1984年母国を訪ねて来たが、当時、国家はスパイを作るために残忍な拷問を加えた。

裁判部は当時、国家機関による拷問があり、捜査機関と法廷での証言は拷問による自白で、任意性が無いことを明らかにし、無罪を宣告した。この日裁判ではシム・ジェフアン担当弁護士（法務法人ヒャンポプ）と金トッカン先生、李東石先生、そして人権医学研究所からイ・ファヨン

所長とパク・ミンジュン事務局長が参席した。残念にもそれ以外の遺族は見当たらなかった。

約40年ぶりに無罪宣告を受けた故 趙伸治先生は、1956年日本の関西北西部にある兵庫県で生まれた。趙伸治先生は朝鮮学校に通ったわけではないが、1971年兵庫県尼崎工業高等学校電気

科に入学した後、朝鮮奨学会奨学生に選ばれた。

以後、趙伸治先生は高等学校を卒業し、大学で東洋文化学を専攻したが、次の年に中退し、両親が運営されていた“大進金属”に就職し、家業を助け始めた。この様に約8年ほど仕事をしていた趙伸治先生は1983年母国語を習うために、延世大学語学堂に留学に来ることになった。約1年余りの時間を韓国で送り、1984年4月、延世大学で5級を終了し、8月下旬に少しの間日本に帰った。2週ほどの時間を日本で送った趙伸治先生は、母国語をもっと習うために9月3日、韓国に戻った。しかしその日、金浦空港で趙伸治先生を待っていたのは保安司令部であった。

在日韓国人良心囚同友会が送ってきた資料によれば、9月3日から10月7日まで、約35日の間、趙伸治先生は保安司令部で不法拘禁され、同時に残忍な拷問を受けたとみるのが妥当だ。その理由はソウル拘置所に収監され10日経たない10月13日、在日同胞 尹正憲、趙一之氏等と共に“学園浸透スパイ事件”として大々的にマスコミに報道された。結局11月7日、趙伸治先生は母国で「反共法」と「国家保安法」違反嫌疑で起訴された。

その様に起訴された趙伸治先生は法廷で一貫して犯罪嫌疑を否定し、裁判部に調査過程で水拷問をはじめとする数々の拷問があったことを告発した。しかし裁判部はこの様な被告人の証言を一つも認定しなかったし、検事は1985年3月19日、6回目の公判で懲役15年を求刑した。そして4月2日、1審で裁判部は懲役7年と資格停止7年を宣告した。以後、大田矯正所で収監生活をしながら、高等法院で裁判を続けていったが、同年ソウル高等法院は原審を維持した。

この様にして終わるかと思われた裁判は大法院で破棄差し戻しになり、違った様相に流れていった。11月12日、大法院のイ・イルギュ判事は検事の法理的主張の矛盾を指摘し、高等法院に再審理を要求した。以後進められた差し戻し審裁判で、趙伸治先生に被せられた「国家保安法」と「反共法」の中で国家保安法嫌疑は無罪になった。これに4月1日差し戻し審宣告公判で「国家保安法」は無罪になり、「反共法」違反は2年に刑が確定した。懲役7年から懲役2年に刑が確定したのである。このように減刑され、1986年10月光州矯正所から釈放されて1ヵ月経たない11月11日、趙伸

治先生は母国を離れた。

1970—80年代捜査機関と司法部によってねつ造されたスパイ事件と比較した時、趙伸治先生の場合は比較的に幸いのように思われる。当時の事件で数多くの拷問被害者が死刑になったりしたし、無期懲役など10年という歳月をずっと超える被害者も多かったからだ。

このような点のため、むしろ趙伸治先生は我々がこの間関心さえ持たなかったのではないか、懲役2年という時間は比較的短いという恣意的な解釈に寄りかかり、しかし趙伸治先生は母国を訪ねて約35日の時間の間、不法拘禁と残忍な拷問を受け、母国で収監生活をしなければならなかった、我々が必ずや記憶しなければならぬ拷問被害者だ。

そして日本に戻り1987年から各地の救援会に参加し、家族たちを慰労するのに努力した。このような流れで1990年、在日韓国人良心囚同友会に参加し、発起人の1人として参加した。周辺の証言によると、趙伸治先生は自身がこのような活動をするのは“先に帰って来た者がしなければならぬこと”と明かしていたという。この様に負い目を持って熱心に活動していた趙伸治先生は残念なことに1991年、享年35歳の若さでこの世を去った。

この間、趙伸治先生に対して知る術がなかった。今回の再審を通じて知ることとなった。裁判過程を通して少しずつ彼の生き様を振り返ってみて、余りにも遅くなったが、今からでも共に記憶しなければならない名前だ。趙伸治先生は1985年懲役7年を宣告されたその場所で、故人になって2022年にまったく同じ高等法院で無罪宣告を受けた。もう一度拷問被害者である趙伸治先生とその遺家族にお祝いの言葉を伝えたい。“無罪を心からお祝いします”。

次の表はこの4年間に進められた裁判の日程を簡略に整理した表です。

日時	内容	場所	その他
2019.10.01	再審請求受付		
2021. 9.23	再審開始決定		
2022. 3. 3	公判期日	ソウル高裁	期日変更
2022. 4.12	公判期日	ソウル高裁	続行
2022. 5.20	検事 キム・チュンス		意見書提出
2022. 5.24	公判期日	ソウル高裁	弁論終結
2022. 6.23	宣告期日	ソウル高裁	判決宣告

在日男性、死後に再審無罪／韓国、違法捜査で嫌疑捏造

共同通信 2022.6.29

韓国のソウル高裁は、1984年に韓国軍に連行され「北朝鮮スパイ」として約2年間拘束された兵庫県尼崎市出身の在日韓国人、趙伸治さん＝91年に35歳で死去＝の再審で無罪を言い渡した。令状なしの35日間の違法な監禁で、自白を強要されたと断じた。29日に判決文を遺族側に交付して理由を明らかにした。

趙さんは85年の原審初公判から「鉄棒で殴られ水責めの拷問も受け虚偽自白をした」と事件がねつ造されたと訴えていた。37年後に裁判所が認めた。

再審を求めた兄の道野学さん（70）は「弟は、ありもしない罪を韓国の政策で着せられた。名誉回復はかなったが、弟も父もこの世を去っており残念でならない」と話した。

ソウル留学中に連行された趙さんは、工作員

から指令を受けて活動したとの国家保安法違反罪などで起訴された。機密探知など主要な嫌疑は証拠不十分で無罪になったが、北朝鮮体制をたたえる発言をしたとして懲役2年の刑を言い渡され、86年まで服役した。

高裁は今回、軍が違法捜査で得た自白が有罪の証拠にされたと判断。趙さんが知人との会話で北朝鮮に触れたことはあるが、たたえる意図があったと言えないとした。

韓国では、同様の罪状で服役した在日韓国人30人以上が近年の再審で無罪になっている。



在日関連韓国政治犯 柳廷植氏に再審無罪判決！

李 東石

2022年7月7日、ソウル高等法院西館第302号法廷（裁判長 イ・ウオンボム、判事 ハン・ギス、ナム・ウヒョン）、（弁護士 チャン・ギョンウク、シン・ユンギョン）で在日関連政治犯、柳廷植氏（82歳）に再審無罪判決が下った。実に42年ぶりの無罪判決だ。

柳廷植氏は1940年、日本で生まれた後両親と共に韓国に帰国した。釜山園芸高校を卒業後、1961年、建国大学畜産部畜産学科に入学し、1967年軍服務を終えた後、畜産技術研修のために日本で鶏加工処理技術の研修を受け、その後、東京大学農学部大学院生物学科に進学して、農業経営学を学んだ。

帰国後結婚し、安定した職場も得て事業を始めた頃、中央情報部に連行された。凄まじい拷問の末、北朝鮮に行き、工作金を受け取り、スパイ活動をするために国内に潜入して、自身がスパイであると「自白」させられた。虚偽陳述書を書かされている間は拷問を受けなくても良いと、安堵感さえ感じる程の過酷な取り調べだった。

裁判では捜査官が“絶対に否認するな”と脅し、恐怖心からただ“はい”と言って済ませた。検事も判事も彼が不当に逮捕されたのではないかと、拷問を受けたのではないかと、問いただしはしなかった。1審は死刑、2審で無期懲役の判決を受け、大法院

で無期懲役が確定した。

1998年、仮釈放で出所した。23年間の獄中生活で、歯はガタガタになり、耳鳴りがひどくて会話が思うようにできなくなっていた。時々急に気絶することもある。1審裁判中に離婚を余儀なくされ、子供たちとも離れて会えない状況だ。投獄中にアボジと兄、兄嫁が亡くなり、家族はいなくなって一人になった。友人も全て連絡が途絶えた。

韓国に“真実和解のための過去事整理委員会”ができ、政治犯が再審を申請したが、柳廷植氏は人権弁護士“再審請求をするように”という提案を拒否した。当時を振り返って柳廷植氏は、“まともな精神状態で生きて行けなかった”と語った。

柳廷植氏が再審請求をすることになったきっかけは、他のねつ造スパイ事件の被害者と会ったからである。同じような苦しみを経験した被害者たちは多くを語らなくてもお互いに理解しあった。彼らと会って勇気をもらい、柳廷植氏は再審請求する決心をした。

2021年10月、再審が開始され2回の公判の後、判決公判となった。判決公判を前にして夜トイレに行くときに躓いて（つまずいて）転んで、頸椎を



ソウル高等法院前にて 2022.7.7

骨折した。手術をして車椅子の生活を余儀なくされた。予定されていた判決公判は延期になった。

7月7日、法廷にあらわれた柳廷植氏は車いすに乗って首にギブスをしていた。少し興奮しているようだった。被告席の横に車椅子で席に着いた柳廷植氏は、耳も良く聞こえないようだった。裁判官は宣告要旨を読み、“証拠の力が無く、排除します”と述べ、無罪を宣告した。その声を彼の横でシン・ユンギョン弁護士が大きな声で通訳(?)した。柳廷植氏は大きな声で“アイゴ、有難うございます”と声を上げた。裁判長は“過去の名誉が遅くなって回復され、今後、歩んでいく人生に有意義になり慰労になることを望みます”と言った。

人権医学研究所関連者を中心に、京郷新聞記者など多くが傍聴に訪れた。閉廷後、“日本の救援会の方々が無罪判決をお祝いしています”と伝え、柳廷植氏は「とても申し訳ないような気がします。生きて行く基盤が崩れ、生活保護者として生きて行かなければならなくて、誰かに連絡をすることが申し訳ないような気がして……」。

判決公判に出廷するために退院せざるを得なかったが、前立腺疾患と頸椎骨折の治療をするため、入院を繰り返している。

残忍な拷問と23年間の獄中生活を取り戻すことは出来ないが、この無罪判決が裁判長の言うように、今後の人生に有意義になり、慰労になることを願っている。



47年ぶりに開かれた再審裁判

スパイ捏造事件の被害者・柳廷植先生の再審が始まる

人権医学研究所・金槿泰記念治癒センター「研究所ニュース」(2022.1.20)

1月20日、ソウル高等法院西館302号室で、47年ぶりに再審裁判が進行した。

再審裁判の主人公は、去る1975年、中央情報部によりスパイ捏造事件の被害者にされた柳廷植先生である。この日裁判は再審開始され、初めて開かれた公判である。今日は柳廷植先生をはじめ同じ国家暴力被害者たちが、ともに再審裁判に参加して柳廷植先生を応援した。

11 時 20 分始まった初めての再審は、裁判部(裁判長ユン・スンウン)のいくつかの案内と質問で始まった。柳廷植先生の弁護を担当する張ギョンウク弁護士(法務法人 常緑)と申ユンギョン弁護士(法務法人 東亜)は、裁判部に控訴理由補充書をはじめ多様な資料を提出した。これら資料は 1975 年当時、柳廷植被告の陳述書と裁判での内容の信憑性を弾劾するためのものである。

これに対して裁判部は、弁護人に資料内容に対する質疑を継続し、弁護人は一つひとつ答弁した。この後、裁判部は検察側に、今日新たに弁護人側で提示した資料に対する意見を尋ねたが、検事は一貫して「意見なし」で終始した。

20 分が経過し被告席に座っていた柳廷植先生は、裁判部に向かって「最後の陳述ができるか」を尋ね、裁判部は了承した。準備した原稿を取り出して淡々と読み上げた。

柳廷植先生は、1975 年に突然中央情報部の要員によって拉致された状況から説明した。45 日間、中央情報部に不法拘禁され、捜査官によってどのように拷問されたか説明しながら、柳廷植先生は途中で涙を流された。

当時、中央情報部捜査官は柳廷植先生に陳述書を強要し、自分たちが望む答えが出なければ、すぐに隣の部屋に連れて行って拷問し、また陳述書を作成されたと明らかにした。

また裁判当時も、中央情報部捜査官たちは、裁判で柳廷植先生が拷問によって作成された陳述書と少しでも違って答弁した場合、とてつもない拷問が待っていると、継続的に脅迫したそうである。

こんな状態で、柳廷植先生はいかなる対処も出来ないままに、裁判を終わってしまった。

結局、1 審裁判の結果は死刑だった。柳廷植先生によると、第 1 審で死刑という判決を聞くと、すぐその場で気を失い倒れたという。そんな恐ろしい裁判が続き、柳廷植先生は 23 年という長い歳月を監獄で生きなければならなかった。

こんな内容を裁判部に訴えながら、柳廷植先



チャン弁護士(左)と柳廷植先生(中間)

生は最後にこのように明らかにした。

「尊敬する裁判長様、もう私は今年 83 歳になります。今は人生を終えねばならないときが近づいています。どうか公正な裁判を通じて、この悔しさを断ち切ってくださいを強くお願い申し上げます」

再審を申請して 4 年余りの時間が過ぎ開始が決定して、この裁判は柳廷植先生個人はもちろん、社会に与える意味が相当である。

1970 ～ 80 年代独裁政権下に、国家という名前の下でどんなに個人の命を統制し抹殺したか如実に見える。同時に当時正当性が欠如した独裁政権が自身の権力を維持するために、どんな無辜(むこ)な個人の命に介入したのかを見るために、この裁判過程を綿密に把握して知らせることが、今後、社会にこんな国家暴力が起きることがないように努力することになる。

今後、人権医学研究所は、柳廷植先生の裁判に引き続き参与して、裁判過程と内容を詳しくお知らせする。

次の裁判は 3 月 17 日午後 4 時 40 分、ソウル高等法院西館 302 号室で開かれる予定である。



＝ 金英姫さん家族（巨文島スパイ事件）＝ 「再審裁判」で無罪確定！！

報告：李東石（2022.9.1）

2022年9月1日、午後1時50分から、「巨文島事件」の再審判決公判がソウル中央地方法院、418号法廷でありました。

「スパイ」のドキュメンタリーを作成した撮影クルーを始め、京郷新聞記者などのマスコミ関係者、被告・金英姫氏と兄姉、親族、人権医学研究所関係者、日本から駆け付けた故・孫裕炯氏の次男の孫明弘氏等、30名を超える傍聴者で少し大きめの法廷でしたが満席で、空席がないくらいでした。

判事が着席し、被告席に張ギョンウク弁護士と、シン・ヘギョン弁護士を挟んで、被告の3人が座りました。

今迄の再審判決公判では、裁判長が簡単に判決の趣旨を述べて、直ぐ主文を読み上げるのが通例でしたが、チョン・ジナ裁判長は30分を超える判決趣旨を読み上げました。内容はマイクの声が良く通らないのと、私の耳が遠くなったせいで良くは理解できませんでしたが、検事側の証拠は認められないというものでした。

裁判長が判決趣旨を述べた後、「みんな無罪」の声に、金英姫氏と家族は被告席で抱き合って泣



ソウル高等法院前にて 2022.9.1

き、喜びを表し、傍聴席からは大きな拍手が巻き起こり、廷吏が静止を諦めるほどでした。

後での弁護士の説明で、判事は謝罪をしたとのことでした。しかし、判決文に謝罪が記載されるかどうかは解らないとのことでした。

法廷を出た後、金英姫氏は取材と映像撮影を受けながらも、ずっと涙を流していました。今までの苦しみ、両親のことを思っただけの涙だったと思います。花束が贈られ、記念撮影した後、私たちは近くのカフェに移動して話し合いました。

最 終 陳 述 書

金 英 姫（2022.9.1）（日本語訳：柳 英数）

※ 柳英数・金英姫ご夫妻のご厚意により公表させていただきました。（事務局）

事 件 ソウル中央地方法院 2020 재고합 4
1. 国家保安法違反 2. 反共法違反 3. 間諜幫助
4. 一般利敵

被告人 金 英 姫

裁判長様、

まず初めに、日本で暮らしている被告の立場を配慮していただき深く感謝申し上げます。

また、数十年の間、心の中に浸み込んでいた無念の思いを、今こうして陳述する機会を与えて下さりありがとうございます。

私にとって、父と母という二文字は、いつも、苦しくて悲しい涙でしかありませんでした。

父を思う時、今も、隣の獄房から聞こえる父の悲鳴、苦しく喘ぐ声、そして水拷問の飛沫の音が、まるで昨日の出来事のように生々しく聞こえてきて、私をいつも辛く苦しめます。

刑事たちに足蹴にされ、あっちに転びこっちに転び、手の指の間に鉄の細い棒を挟み、その指をねじり回され、指が今にも千切れてしまいそうな自分の苦痛より、隣から聞こえてくる父の悲痛な声は、息もできないぐらいに私を苦しめました。

「アボジ、アボジ、アボジ」と心の中で叫び、苦痛で喘ぐ私に、「あの声を聴きたくなかったら早く言われた通り、そのまま書け!」と言った刑事たちの残忍で暴虐なその声が、何十年も経った今も、父母を思うたび、胸を抉（えぐ）られるように苦しくて苦しくて。

裁判長様、

私の父は足に障害がありました。

尋問を受けていたある日、刑事たちが私に、「びっこのくせに、その足で何処へ逃げようと。お前の父親は死ぬつもりで逃げて、汽車道で立っているのを見つけ捕まえてきた。父親を生かしたいなら、早く言われた通りにした方がいいぞ。」

と薄笑いしていた刑事たちの残忍さを忘れることができません。

このような状況で言われた通りしないで耐えられる人がいるでしょうか。

連行されて何日か経ち、別のところに移送された時に見た、あの父母の無残な姿をどう表現できるでしょうか。

父の両頬には耳から流れ出た血が乾いてこびり付き瘡蓋（かさぶた）になり、母は何日かぶりに初めて自分の娘を目の前にしながらも、体を強張らせブルブルと震えて一言の声もかけられず、ただ茫然と見つめるだけだった母のその目。

凄惨な苦しみを強いられた父母のその姿は、歳月がどれだけ過ぎようと、いいえ、たとえ死んでもどうして忘れられるでしょうか。

裁判長様、

当時、私は19歳でした。

何の知識も無く無知だった私は、“宣告”とは何のことなのか、“控訴”とはどういうことなのかさえ知りませんでした。残忍な拷問を受けたある日、また別のところに移されました。

昨日までとは違って暖かい部屋に案内され、食事も与えられ睡眠もとらせてくれました。

捜査官は私の頭を撫でて背中を優しく摩りな

がら、「これでもう全部終わった。今までやってきたとおりに“はいそうです、そのとおりです”と答えていれば、父母と一緒に家に帰れる。自分を実の叔父さんだと思って、何か欲しいものがあれば言えばいい」などと温かく慰めてくれました。優しいその声に、涙が出るほど有難いと思いました。

拷問に耐えられず、死ぬつもりで足を引きずりながら逃げた父、そして母。私が言われたとおりに答えさえすれば“一緒に家に帰れる”という捜査官の言葉を堅く信じました。しかし結局、私たち家族は監獄に送られ獄中生活を強いられました。

その後、私は3年6ヵ月の監獄生活を終え釈放されましたが、帰る家も無い……。父母もいない。いったい何処へ行けばいいの……。何処に行けというの……。

監獄の外の壁の前で一人茫然と立ちつくし、ただただ涙が溢れてきました。

当時、私の唯一の生き甲斐は、父母に面会に行くことでした。

その間、父は獄中でガンを患い、先に出所した私が面会に行った時、父はもう既に息が苦しく、面会に出て来れず私が監獄の中に入り父の居る監房で会うしかありませんでした。

房の冷たいコンクリの床に横たわっている父は、やせ細り骨だけで……。

そんな父を残し背を向け去らなければならない娘の気持ちを想像できるでしょうか？

泣いて泣いて、また泣いて。思い出してはまた泣いて……。

父に面会した後は、食べることも眠ることもできませんでした。世の中を恨めしく思いました。

北にいる兄弟が懐かしく、ただ会っただけで罪になるなら、この天の下に罪のない人がどれだけいるのでしょうか？

どうか父が息子娘たちの手を握って最後の道を行かせてあげて下さいと嘆願書を出し、父はその後、病保釈で私たちの元へ帰って来ましたが、お粥一さじさえ食べることができず、一ヵ月足らずで、二つの目を大きく見開いたまま、息を引き取りました。

時局に恵まれず、兄弟を懐かしんだことで罪人にならざるを得なかった私の父の悔しい苦痛の人生を、天は知っているのでしょうか？

裁判長様、

時局に恵まれなかった悲しみを、分断の悲劇の苦痛を、国家は私たち家族に責任を転嫁しました。また、私 金英姫を間諜としてねつ造し、恥辱に耐えない映画を製作上映し反共宣伝に利用してきました。

それだけではありません。当時、収監されはしませんでした。私たち兄弟姉妹も悲しく苦しい生活を強いられました。

特に私の兄の金英鎬は、理由も無く連行され、死んでもおかしくない激しく残酷な拷問による後遺症で、長い間、悪夢に魘（うな）され、突然、「誰か私を捕まえに来た！」と叫びながら両手で顔を覆い、そのまま布団の中に隠れるなど、精神疾患を患いました。

その兄の子供たち（私の甥、姪）は、そんな父親の姿を見ながら怖くて不安な日々を送らなければなりませんでした。また引っ越し先では刑事たちが付きまとい、一カ所に長く住むことができず、幼い子供たちを連れてどれだけ引っ越しを繰り返したのか。また子供たちもその度転校を余儀無くされ、辛い思いをしてしまし

た。このように悲しく苦しい歳月を送るしかなかった私たち家族に、どうか温かい配慮を切に願います。

裁判長様、

私 金英姫は日本の地で、故国を懐かしみ、半生以上の間暮らしながら、70歳を目の前にしています。一日も早く間諜という汚名が解かれ、残された余生を夫と一緒に故国に帰り暮らしたいということが、私たちの小さな願いです。

子供たち、孫たちを横に座らせて、歴史の中の分断の悲劇について平穏な気持ちで語ってあげられる日が来ることを願っています。

知識も無く、無知な、今、ここに立っている私たち兄弟姉妹が大韓民国の国民として堂々と生きていける機会をどうか与えて下さい。

尊敬する裁判長様、

どうか、地下にいる私たちの父母が、今はもう、何の心配も無く安らかに眠れるよう、善処してくださることを切に願います。

2022年9月1日 金英姫

宣 告

事 件 ソウル中央地方法院 2020 재고합 4

1. 国家保安法違反 2. 反共法違反 3. 間諜幫助 4. 一般利敵

裁判長 判決 要旨

「国家暴力に抗える人はいない。」

「全員無罪。」

2022年9月1日

『スパイと島の娘』が統一言論賞受賞！

出典：PD ジャーナル（2022.10.15）

皆様、本当に嬉しいお知らせです。先日放映された『スパイと島の娘』が統一言論賞を受賞することが今日発表されました！ 柳英数さん、金英姫さん、おめでとうございます！ 制作された李PDにもお祝いの言葉をお伝えしようと思います。李哲。

KBS『スパイと島の娘』・MBC『映像記録南北鉄道』統一マスコミ賞受賞

第28回統一言論賞特別賞受賞作選定… 24日プレスセンターで授賞式

第28回統一言論賞特別賞にKBS『ドキュメント・スパイと島の娘』と、MBC『映像記録南北鉄道、奇跡のオディセイ』が選定された。昨年に続いて今年も大賞はなかった。

全国言論労働組合と韓国PD連合会、韓国記者協会が共同で主催する第28回統一言論賞審査委員会は、両作品を特別賞に選定したと14日明らかにした。

統一言論賞は「平和統一と南北和解・協力のための報道・制作準則」の趣旨と内容を新聞・放送・通信の報道制作に忠実に反映したジャーナリスト、メディアと平和統一運動に寄与した社会団体やその関係者に与える賞である。

審査委員会はKBS〈ドキュメント・スパイと島の娘〉(演出 イ・ホギョン)に対して「金英姫氏と柳英数氏夫婦が分断のために経験しなければならなかった痛みを完全に伝達した」と評価した。

この作品は1976年、巨文島スパイ侵入事件で家族全員が悔しい獄生活をして苦しんだ金英姫氏と、再審を通じて無罪判決を受けた「在日同胞留学生スパイ事件」の被害者、柳英数氏の愛と人生を描いたドキュメンタリーである。

MBC〈映像記録南北鉄道、奇跡のオデッセイ〉



(企画・張ヒョンウォン、演出・金ミョンファン、孫ゴル)については、「分断で途切れた京義線と東海線につながる北朝鮮鉄道の大動脈を鮮やかに盛り込んで、大陸につながる韓半島縦断鉄道の意味を明らかにした」と審査委員会は評価した。

独立製作会社「カマドの猫」で演出したこの作品は、北朝鮮の11の鉄道駅と10の都市景観をカメラに収めるなど、最近北朝鮮の姿を照明した。

授賞式は来る24日午後3時、ソウル太平路プレスセンター19階記者会見場で開かれる予定だ。「10・24自由言論実践宣言48周年記念式、および第34回安ジョンピル自由言論賞授賞式」ともに行われる。

(PDジャーナル=イムギョンホ記者)



＝「統一革命党再建委員会事件」の故 朴基来氏＝

再審（高裁）で無罪判決

ハンギョレ新聞 2022.9.28 (抄訳：康宗憲)

ソウル高等法院刑事12-1部(裁判長キム・ギルリャン)は9月27日、国家保安法違反・スパイ罪・軍事機密漏洩などの容疑で起訴され死刑判決を受けた故朴基来氏に、47年ぶりの再審で無罪を宣告した。

故人は1974年、統一革命党再建委事件で保安司令部に不法逮捕された状態で拷問捜査を受け、翌年には死刑判決を宣告された。83年に無期懲役に減刑された後、91年に仮釈放され統一運動に関わっていたが、2012年に他界した。

遺族は2018年12月、ソウル高等法院に再審を請求した。「民間人を捜査する権限のない保安司令部が令状もなく逮捕・拘禁し、殴打・拷問などの苛酷行為による自白の強要があった」との主張だった。ソウル高等法院は2020年5月、再審受理を決定した。

一方の検察は、再審裁判では異例ともいえる無期懲役を求刑した。「朴基来氏が保安司令部での陳述と同様の趣旨で法廷でも陳述しており、法廷陳述の証拠能力は認定されるべきだ」との理由からだ。

裁判部はしかし、朴基来氏の法廷陳述と捜査機関が収集した押収物の証拠能力を全て認定できないと判断した。「被告が捜査機関で苛酷行為な

どを受け任意性のない自白をしたのであり、法廷でもそうした心理状態が継続していたのなら、法廷陳述も任意性のない自白と見なさねばならない」とし、「各証拠物は不法捜査の過程で強制的に収集した物と思われる」と表明した。続いて裁判部は「再審事件の進行がかなり遅延したことをお詫びしたい」とも述べた。

裁判部が無罪の判決を宣告するや、傍聴席からは拍手と歓呼の声が湧きあがった。宣告を受け長男の朴チャンソン氏は記者に対し、「判決は、独裁政権下の公安検察が証拠能力もなしに公訴した事実に対する弾劾だ。この国に不幸な歴史が反復されないことを願う」と述べた。

検察は10月4日、上告した。

大丈夫です

柳 根（日本語訳：李哲）

大丈夫です。
また負けました。大丈夫です。
軍人が支配する国でも生きました。
詐欺師、無能力者が支配する国でも
生きてみました。
大丈夫です。死なないです。

生き残った私たちで
お互いの体温を確認しあいました。
大丈夫です。死なないです。
死んではいけません。

心を尽くして
悪党が支配する社会を防ごうと
泣きながら声を上げ
すべての力を尽くしました。
そうです。私たちは最善を尽くしました。

なのに、私たちの時代の力はここまででした。
国の運命がここまででした。
そういうこともあるのです。

元気を出しましょう。

これから検事が支配する国で
何年か生きてみましょう。
どんな国になるのか経験してみましょう。
どんな犯罪が生き延び、どんな犯罪が死ぬのか、
見守りましょう。
保守だと自称する輩が
権力をどう使うのか見守りましょう。
国がどう危うくなるのか見守りましょう。
青年と女性と老人たちが
どれほどさらに苦しむのか
見守りましょう。
貧しい人たちがさらにどう貧しくなるのか
見守りましょう。

検事エリートらが支配する国を
面白く生きていきましょう。
大丈夫です。死にません。
権力よりも
民衆と歴史がはるかに長生きするのです。
権力は死んでも民衆は生きのびます。
国が減びても民衆は生きのびます。

大丈夫です。大丈夫です。

死なずに生きていきましょう。
検事が支配する国、面白く楽しみましょう。
大丈夫です。

私たちがここにいるから大丈夫です。
本当に大丈夫です。
私たちは次に勝てば良いのです。大丈夫です。

あなたがそこにいてくれるから大丈夫です。

(柳根 詩人)

韓国でデモに立ち続けた 裴 恩深さん [1月9日死去81歳] 息子を思い闘争の場へ

徳島新聞 2022.3.28

1987年6月、全斗煥政権の独裁に抗議するデモの先頭にいた息子の延世大生、李韓烈イ・ハンヨルさんが、機動隊が水平発射した催涙弾に頭を撃たれ倒れた。市民の怒りは収まらなくなり、政権は事実上の退陣である大統領直接選挙制の受け入れに追い込まれた。

だがそれは民主化の一步にすぎなかった。労働者や貧困層の権利を求めたり南北融和を望んだりする者を「ア力」と呼んでの弾圧は続いた。あらがう人々の闘いに、失った息子に代わって加わった。あの子がなぜ闘争に身を投じたのか、母として知らねばならない、という思いからだったという。

「人が人らしく生きられない不正義があまりに多いことを、私はそのとき知った。韓烈が、誠実に生きてほしいという私の願いを受けて育ったからデモに参加したのだということも」

機動隊との対峙に加わった「李韓烈の母」の姿はデモ隊に力を与えた。「息子より多くの（催涙ガスを吸ってきた）」という長い闘いの先に、民主化運動家の名誉回復法や変死事件の真相究明法の制定が実現した。それでも、南北の和解を妨げ独裁を可能にしたと信じた国家保安法を廃止に追い込めなかったことを悔しがり、政治家になった同志を「妥協して勝ち取れるものはない」と叱り続けた。

15年前に初めて会った時、韓烈さんの死からすでに20年の時間が流れていた。

「私は李韓烈という名が人々の記憶から消えないように現場へ出て行く。集会へ行くときは、いつもあの子と一緒に。誰にもあの子は見えない

けど」と話してくれた。笑顔は見たことがない。わが子が生きた証しを守るために、不条理を受け入れない人々のそばに最後まで立ち続けた、痛みの多い人生だった。

(共同通信 栗倉 義勝)



【写真】民主化運動の犠牲者追悼式典で闘争歌を歌う裴恩深さん＝2017年6月、ソウル（共同）



※ コロナで往来が制限される時代でなければ、光州までお別れに行きたかった方でした。どうか今は安らかに、息子さんのそばでお過ごしください。他国から来た私のような記者をいつも受け入れてくださって、本当に感謝しています。(栗倉)

金永愛さん（康宗憲氏のオモニ）を偲んで……

オモニ(母)金永愛が2022年8月3日の午後3時49分、低蛋白血症による心不全で亡くなりました。享年92歳で、天寿を全うしたと思います。ここ数年は介護施設で過ごし、昨年から入退院を繰り返していましたが、最後は苦しむこともなく、静かに息を引き取りました。

思えば、私は親不孝の長男で、両親には心配ばかりかけてきました。24歳で死刑判決を受け37歳で釈放されるまで、オモニは救援会の皆さんに支えられながら、気強い心で息子を励まし支援を続けてくれました。一人ではなく、多くの政治犯家族の方々が周囲に居られ、皆さんと力を合わせ救援運動に東奔西走した日々を、きっとオモニも懐かしく思い出されていることでしょう。

生前、オモニに注いでくださった皆様方のご厚意に、心よりお礼を申し上げます。(康宗憲)

■ 私たちの同志 康宗憲氏のオモニ、金永愛オモニが永眠されました。在日韓国良心囚同友会は金永愛オモニのご逝去の報に接し謹んで哀悼を表し、ご冥福をお祈りいたします。

金永愛オモニは死刑囚だった康宗憲氏の獄中13年間、ひとえに息子の釈放を求めて闘われ、ついには釈放を勝ち取られました。在日韓国良心囚同友会は、金永愛オモニが今は永遠の安息につかれるよう、心よりお祈りいたします。

(李哲)

■ 삼가 고인의 명복을 빕니다. 心から故人のご冥福をお祈りします。(李東石)

■ 金永愛オモニのご冥福をお祈り申し上げます。金永愛オモニとは、何度も渡韓し大変お世話になりました。大きな声で全身で闘う姿が目心に焼き付いています。私の生き方に大きな影響を下された方です。手作りの家庭料理の美味しかったこと！忘れることが出来ません。色々思い出があります。この場を借りて御礼申し上げます。(岡内克江)

■ 金永愛オモニは、康宗憲氏を助け出すために全身全霊で動かれていて、韓国でも何度も故趙萬朝オモニと一緒した日々を思い出します。苦しい苦しい思いを抱えていても、お氣遣いが深く、しっかりとした信念をお持ちでした。時間のある時はいつも本を読んでおられ、ずっと読書が大好きと言っておられました。康宗憲氏、今は悲しみでいっぱいでしょうけど、落ち着かれたら、金永愛オモニタリョン（打令）を語ってください。謹んでご冥福をお祈りします。

(松本百合)

■ 康宗憲氏のオモニ金永愛オモニのご逝去を心からお悔やみ申し上げます。1980年初めて崔哲



※ 金永愛さん（2001.6.16「在日韓国良心囚同友会／結成10周年祝賀会」前列左から2人目）

教氏娘がアボジに面会でき、泣いて泣いてしていたソウル拘置所。オモニは、康宗憲氏に面会にいられていましたね。そばには趙萬朝オモニがおられました。「かわいそうに」とつぶやき、なんとも言えない顔でチョンスギを見つめつづけていたことを思い出します。オモニ自身ご苦勞な人生でした。かいあって息子は手元に戻り、のちにいい人生を歩まれたこととおもいます。ご冥福をお祈りします。(渡辺厚子)

■ 康宗憲さんのオモニのご逝去。みなさまの深い哀悼を感じています。わたしは、牧田清さんの写真集でしか存じあげていませんが、写真集『良心囚のオモニたち』のあとがきに、牧田さんは「……報道カメラマンとして良心囚の叫びを伝えることのできない無力感に落ち込みそうになったとき、家庭で、闘いの現場で、涙と怒りを表現するオモニたちの姿に出会いました。……」と、記されています。牧田さんのカメラをとおして出会ったオモニたち。そして康宗憲さん、みなさんと、ご苦勞をともにされ、大事な大きな存在だったオモニ（たち）に、深く感謝いたします。

(岸本淳子)